

NAS 3点セット設定手順書

本書では下記構成での初期導入手順を説明しています。
※必要に応じて各商品のマニュアル等をご参照ください。

NAS 3点セットとは？

本書でのNAS 3点セットとは、以下の商品の組み合わせのことを言います。

▼ WSS 搭載 NAS



I-O DATA LAN DISK Z

▼ 外付け USB HDD

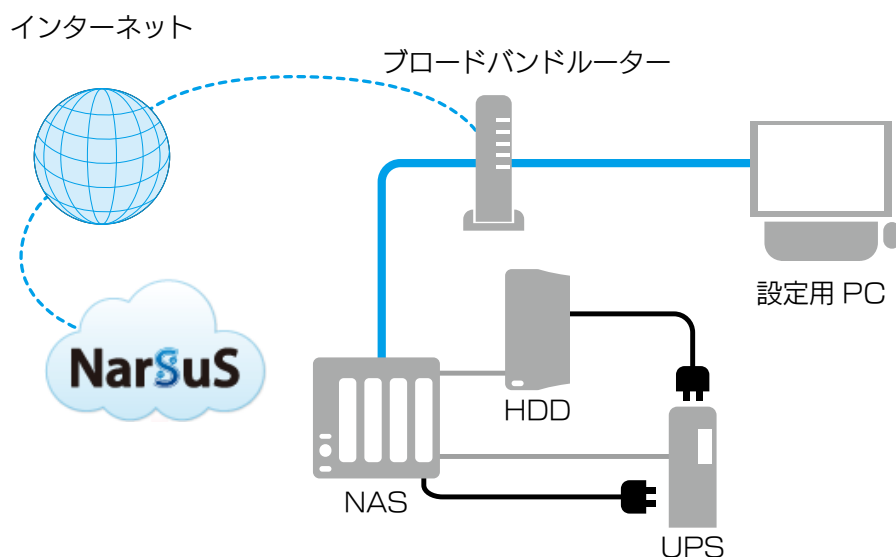


I-O DATA HDJA-UTW

▼ 無停電電源装置 (UPS)



OMRON 製 UPS



※ UPS 用ソフトウェアをインストール時に、CD-ROM を読み込める USB 接続可能なディスクドライブが必要です。

INDEX

導入する	3
①設置する	3
②リモートデスクトップ接続する	6
③初期設定	8
共有の作成と管理	16
共有を作成する	16
バックアップと回復	22
Windows Server バックアップ機能	23
クローン for Windows	29
ディスクとボリュームの活用	38
シャドウコピー設定	38
UPS 設定	42
NarSuS で確認可能になる項目	42
NarSuS ソフトのアップデート	44
UPS 用ソフトのインストール	45
UPS 情報を確認する	49
故障時の対応	50
故障と思ったら…	50
オプション HDD	50
カートリッジの交換方法	51
バックアップデータから復元する場合	55
資料	57
Windows Update を実行する	57
アクセス許可	58

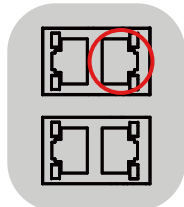
(巻末) HDL-Z シリーズパラメータシート

導入する

① 設置する

- 1 LAN ケーブルを NAS の LAN ポート 1 とルーター（またはハブ）につなぐ
機種によって位置が異なります。上（右上）の LAN ポートに接続してください。

▼ 4 ポートある場合



▼ 2ポートある場合



ご注意

- 必ず、LAN ケーブルが確実に接続されていることを確認してから本製品の電源を入れてください。LAN ケーブルを接続する前に本製品の電源を入れると、正しくネットワークに参加できなくなります。

- 2 NAS の USB 3.0 ポート（青）に UPS をつなぐ
機種によっては前面にある場合もあります。



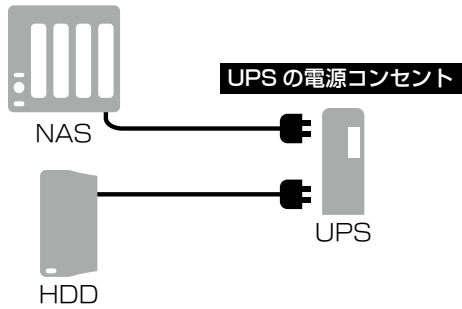
- 3 NAS の USB 3.0 ポート（青）に USB HDD をつなぐ



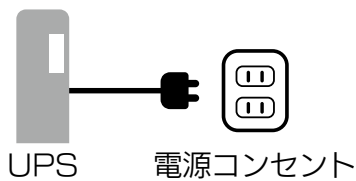
4 NAS の電源コード（AC アダプター）をつなぐ

※ケーブルフックに引っかけます。

5 NAS と USB HDD の電源コードを UPS の電源コンセントにつなぐ



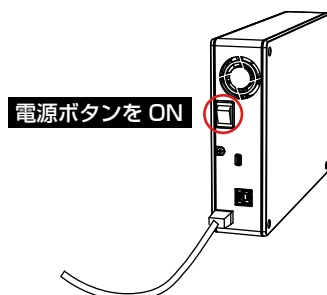
6 UPS の電源コードを電源コンセントにつなぐ



7 UPS 前面の電源スイッチを ON にする

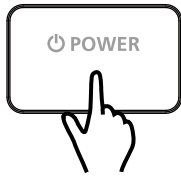


8 USB HDD 背面の電源ボタンを ON にする



9 NAS 前面の電源ボタンを押す

▼4 ドライブモデル



▼2 ドライブモデル



これで設置接続は完了です。

次に [【②リモートデスクトップ接続する】\(6 ページ\)](#) へお進みください。

NAS の電源を切る場合

●電源の切り方については、管理マニュアルをご覧ください。

動作中にシャットダウンを完了せずに、電源コードを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。故障の原因になったり、データが消失する恐れがあります。

②リモートデスクトップ接続する

MagicalFinder をダウンロードする

MagicalFinder とは？

MagicalFinder は、ネットワーク上の LAN DISKなどを自動検出し、IP アドレス設定やリモートデスクトップ接続をおこなうことができるソフトウェアです。

同一ネットワーク上にあるパソコンから本製品を検出し、リモートデスクトップ接続ができます。

本製品と同一ネットワーク上にあるパソコンから、以下の弊社 Web ページにアクセスし、ダウンロードしてください。

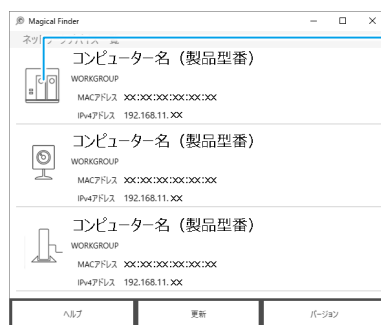
<https://www.iodata.jp/r/3022.htm>

リモートデスクトップ接続する

1 MagicalFinder を起動する

※セキュリティの警告が表示された場合は、問題ありませんので、[アクセスを許可する] をクリックしてください。

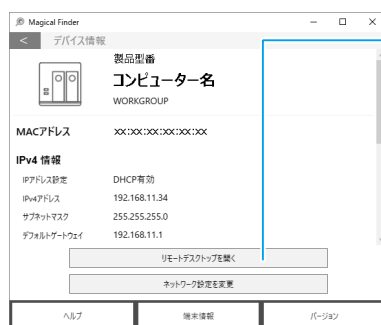
2 検出された NAS をクリック



NAS が検出されない

[更新] をクリックしてください。それでも検出されない場合は、NAS やお使いのパソコンがお使いのネットワークに接続されていることをご確認ください。

3 [リモートデスクトップを開く] をクリック



資格情報が設定済みの場合

[別のアカウントを使用] をクリックしてください。

[ネットワーク設定を変更] について

コンピューター名の変更、ワークグループの変更、IPv4 設定 (IPv6 設定) などのネットワーク設定ができます。

ここで設定できる項目はデバイスの種類やシステムバージョンによって異なります。

※ Active Directory ドメインに参加している場合、ネットワーク設定の変更はできません。

設定方法は、Magical Finder のヘルプをご確認ください。

4



①以下の資格情報を入力

ユーザー名	administrator
パスワード	admin

パスワードを初期設定から変更している場合は、変更したパスワードを入力

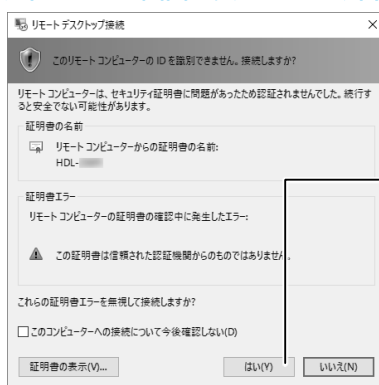
② [OK] をクリック

※上記画面が表示されない場合は、本製品とパソコンが同じセグメントにないことが考えられます。前ページの【ネットワーク設定を変更】についてで IP アドレスをご確認ください。

パスワードは、後ほど変更してください

●出荷時パスワードは「admin」です。セキュリティのため、パスワードは変更してください。(【③初期設定】(8 ページ) 参照)

以下のような画面が表示された場合



[はい] をクリック



リモートデスクトップ接続をして、右の画面が開きます。

画面が表示されたら、【③初期設定】(8 ページ) へお進みください。

Windows の【リモートデスクトップ接続】から開く場合

1. 以下の手順で【リモートデスクトップ接続】を起動する

● Windows 10 の場合

[スタート] → [すべてのアプリ] → [Windows アクセサリ] → [リモートデスクトップ接続] をクリック

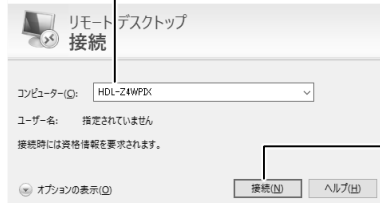
● Windows 8 の場合

[スタート] → [リモートデスクトップ接続] をクリック

● Windows 7 の場合

[スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [リモートデスクトップ接続] をクリック

2. リモートデスクトップ接続

①コンピューター名を入力
※出荷時設定は、管理マニュアルを参照ください。

② [接続] をクリック

※ [オプションの表示] の [画面] タブ から解像度を [全画面表示] に設定すると、お使いのパソコン画面にあわせた表示ができます。

このあと、上記手順 4 をご覧ください。

③初期設定

初回起動時におこなう必要最小限の設定を説明しています。

設定の前に

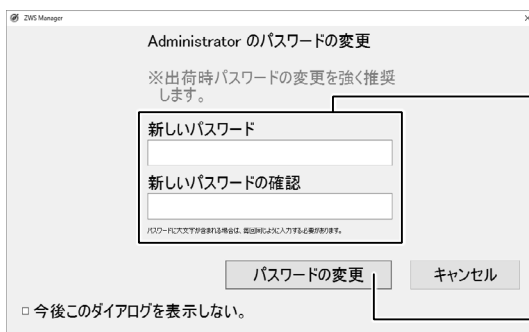
1 NAS に設定する以下の項目を確認する

※設置場所のネットワークによります。

- ・ IP アドレス
- ・ サブネットマスク
- ・ デフォルトゲートウェイ
- ・ DNS サーバー

2 Administrator でログオンする

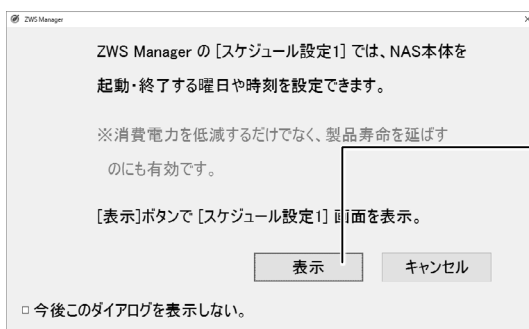
3



①パスワードを設定

② [パスワードの変更] をクリック

4



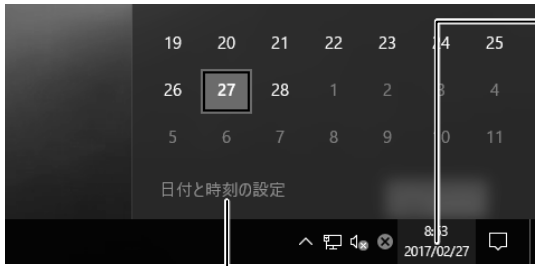
スケジュール設定をおこなう場合、
[表示] をクリックし設定する

右の NarSuS 設定画面が表示されていますが、[【NarSuS に登録する】](#) (13 ページ) にて操作しますので、この画面はそのままにして、[【日時・時刻設定を確認する】](#) (9 ページ) へお進みください。



日時・時刻設定を確認する

1



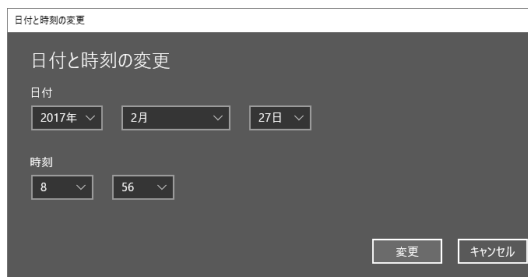
①タスクトレイの時刻をクリック

② [日付と時刻の設定] をクリック

2

[時刻を自動的に設定する] を
[オン] にする**本製品がインターネットに接続しない場合**

- 本製品がインターネットに接続されていない場合は、[日付と時刻を変更する] の [変更] から正確な時刻を設定してください。



[【IPアドレスを確認する】\(10 ページ\)](#) へお進みください。

IP アドレスを確認する

1 [サーバーマネージャー] を開く

2



① [ローカルサーバー] をクリック

② [イーサネット] 横のリンクをクリック

3

① 設定するイーサネットを
右クリック

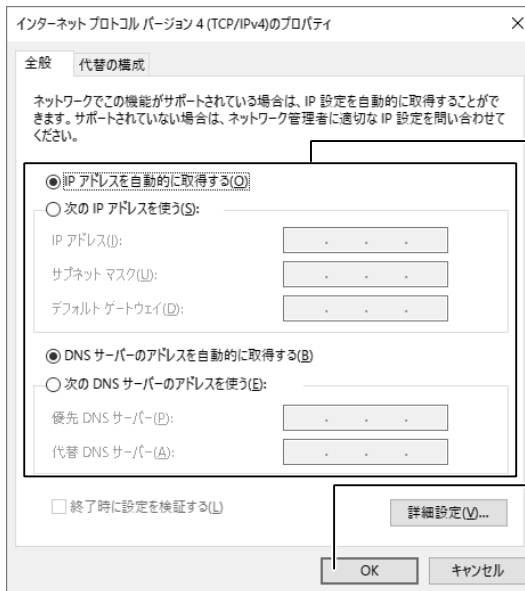
② [プロパティ] をクリック

4

① [インターネットプロトコルバージョン
4(TCP/IPv4)] を選ぶ※ IPv6 設定をおこなう場合は、
[インターネットプロトコルバージョン 6(TCP/IPv6)] を選び
ます。

② [プロパティ] をクリック

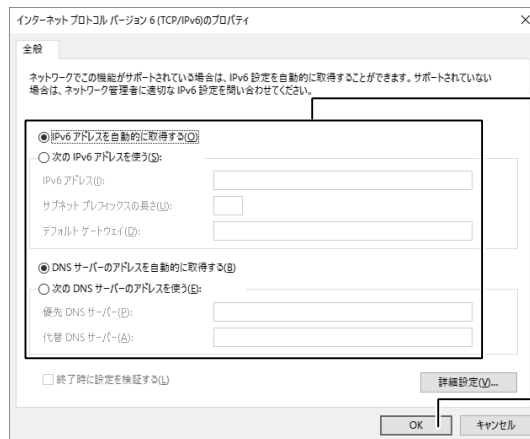
5



① IP アドレスを設定する

② [OK] をクリック

IPv6 の場合



① IP アドレスを設定する

② [OK] をクリック

6 (IP アドレスを変更した場合)

いったんリモートデスクトップ画面を閉じて、変更後の IP アドレスで再度開く

※ MagicalFinder を使用している場合は、「更新」ボタンをクリックした後、「リモートデスクトップを開く」ボタンをクリックしてください。

[【リモートデスクトップ接続する】\(6 ページ\) 参照](#)

[【コンピューター名 / ドメイン名の設定を確認する】\(12 ページ\) へお進みください。](#)

コンピューター名 / ドメイン名の設定を確認する

※本製品を Active Directory に参加させる場合は、NAS の【管理マニュアル】内【Active Directory に参加する】をご覧ください。

1 [サーバーマネージャー]を開く

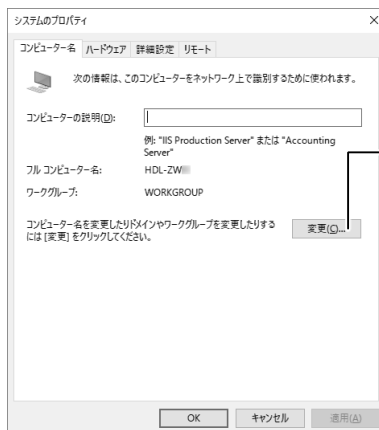
2



① [ローカルサーバー] をクリック

② [コンピューター名] 横のリンクをクリック

3



[変更] をクリック

4



① 必要に応じて設定を変更する

② [OK] をクリック

[【NarSuS に登録する】 \(13 ページ\)](#) へお進みください。

NarSuS に登録する

NarSuS (ナーサス) とは？

NarSuS は、24 時間 365 日、お客様の NAS を見守る安心サービスです。
万一トラブルが発生しても、自動的にメールでトラブルをお知らせします。
本製品に接続された UPS や外付け HDD の見守りもおこなえます。

詳しくは以下の URL から、NarSuS ヘルプをご確認ください。

https://www.iodata.jp/lib/manual/narsus_help_lib/



ご注意

- 本機能は、IPv4 ネットワークでのみ使用できます。
 - Internet Explorer でご利用の場合、あらかじめ "https://www.narsus.jp" を [インターネットオプション] → [セキュリティ] から [信頼済みサイト] に登録しておいてください。
- 【設定の前に】(8 ページ)** でそのままにしておいた NarSuS 設定画面を操作します。

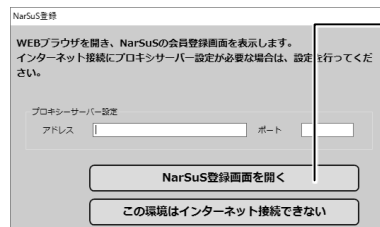
1 ※本製品へのログオンに成功したら、以下のような画面が表示されます。



- NarSuS に LAN DISK を登録したことがない場合
[NarSuS にはじめて登録 (無料)] をクリック
- すでに他の LAN DISK を登録している場合
[NarSuS に製品を追加登録] をクリック

※ NarSuS 登録をしてから、本製品の設定をおこなってください。

2 [NarSuS 登録画面を開く] をクリック



[プロキシサーバー設定]

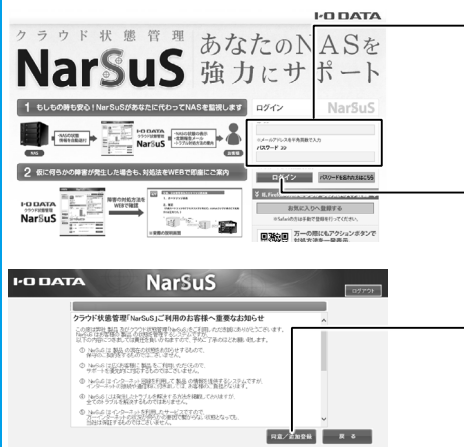
インターネット接続にプロキシサーバーの設定が必要な場合は、ご利用のネットワーク管理者に設定等をご確認ください。

Internet Explorer で注意が表示された場合



[インターネットオプション]→[セキュリティ]から、
"https://www.narsus.jp" を [信頼済みサイト] に登録してください。

追加で登録する場合



①登録済みの [ID]、[パスワード] を入力

② [ログイン] をクリック

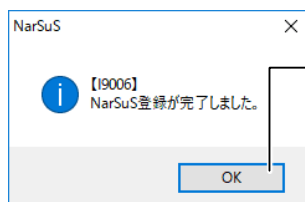
③ [同意/追加登録] をクリック

このあと、手順 3 へお進みください。

3 画面の指示にしたがって、必要事項を入力し登録する

※ LAN ポートが複数ある LAN DISK の場合は、「MAC1」の MAC アドレスを入力してください。

4 登録が完了したら、Web ブラウザーを閉じる



この画面が表示されたら [OK] をクリック

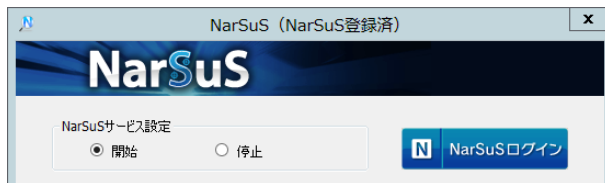
登録通知メールが送付されますので、保管しておいてください。

ご注意

●登録に失敗した場合、以下をご確認ください。

- ・本製品がインターネットに接続可能な環境に設置されていること (LAN ケーブルが正しく接続されていること)
- ・プロキシを介してインターネットへ接続する場合は、プロキシが正しく設定されていること
- ・本製品の TCP/IP 設定を手動でおこなっている場合は、デフォルトゲートウェイ、DNS サーバーが正しく設定されていること
- ・お使いの Web ブラウザーのキャッシュ (Cookie) をクリアして再度お試しください。

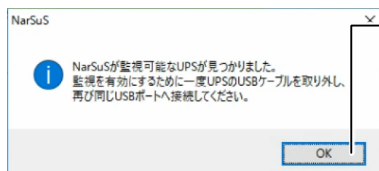
- 5 タスクトレイの NarSuS アイコンをクリックし、[NarSuS サービス設定] が [開始] になっていることを確認する



ご注意

- NarSuS ソフトが UPS を認識するためには、NarSuS 設定画面のサービスを [開始] にする必要があります。
- オムロン製「BY-S シリーズ用ファームウェア アップデートツール」、「UPS 設定ユーティリティ」と本ソフトの同時利用はできません。
オムロン製「BY-S シリーズ用ファームウェア アップデートツール」、「UPS 設定ユーティリティ」を利用するときは、NarSuS 設定画面のサービスを一時的に [停止] にして、利用後は [開始] に戻してください。

- 6 [OK] をクリック

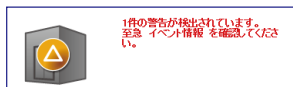


- ※すでに UPS を NAS に USB 接続済みの場合、この画面が表示されます。
- ※他の USB ポートに接続した場合でも、再び同じ画面が表示されます。

- 7 UPS の USB ケーブルをいったん抜き、同一 USB ポートに再度つなぐ

- ※抜き挿しが難しい場合、接続したまま NAS を再起動してください。
- ⇒ 再度 UPS をつないでも何もメッセージが表示されなければ完了です。

初回セットアップ時に以下の警告が最大一日表示されますが、問題ありません。



1件の警告が検出されています。
至急 イベント情報 を確認してください。

- ※定期通知データ受信後に自動的に状態表示に戻ります。
2日以上継続する場合は、再度上記手順をおこなってください。

▼イベント情報

I-O DATA NarSuS			ログアウト
ここでは通知可能なイベントを一部抑制しています。 編集項目は設定メニューから変更可能です。			
発生日時	通知内容	解決策	
2016/06/10 16:17	監視可能なUPS検出 (UPSの再接続またはOSの再起動が必要です)	お知らせ	

以上で、初期設定は完了です。

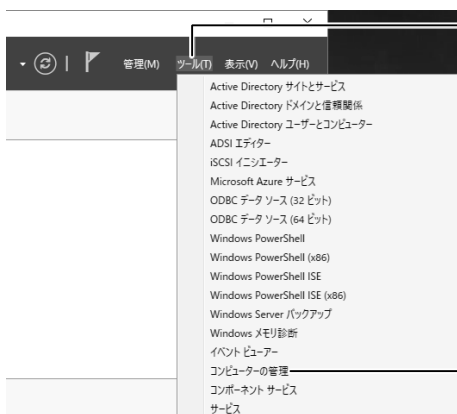
共有の作成と管理

共有を作成する

ユーザーを作成する

1 [サーバーマネージャー]を開く

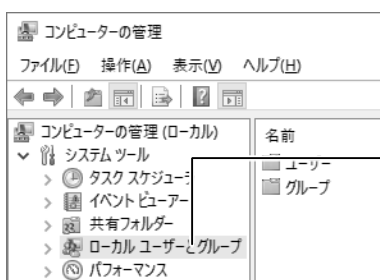
2



① [ツール] をクリック

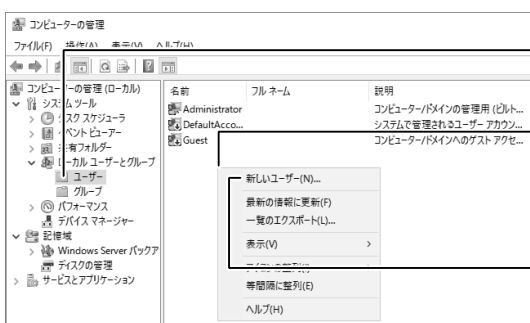
② [コンピューターの管理] をクリック

3



[ローカルユーザーとグループ] をダブルクリック

4



① [ユーザー] をクリック

② 右側のスペースを右クリック

③ [新しいユーザー] をクリック

5

① [ユーザー名] を入力

※他の項目も必要に応じて設定します。

※ [ユーザーは次回ログオン時にパスワード変更が必要] は、お客様のセキュリティポリシーにより選択します。

② [作成] をクリック

③ [閉じる] をクリックし、ユーザーがリストに登録されたことを確認する

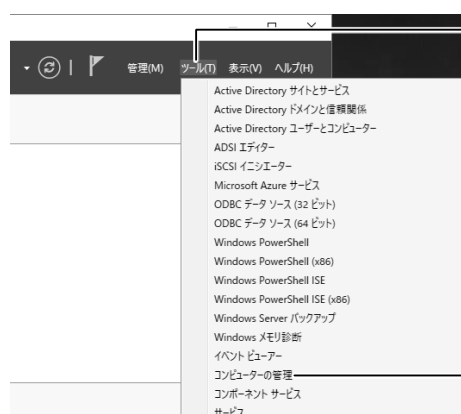
以上で、ユーザーの作成は完了です。次に必要に応じてグループを作成します。

※本製品に登録可能なユーザー数は、HDL-ZWP シリーズは無制限、HDL-ZWQ シリーズは 50 ユーザーです。

グループを作成する

1 [サーバーマネージャー] を開く

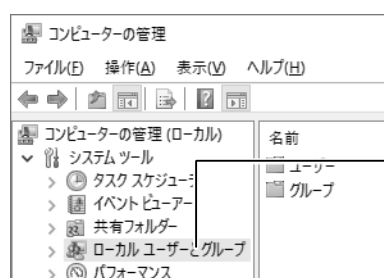
2



① [ツール] をクリック

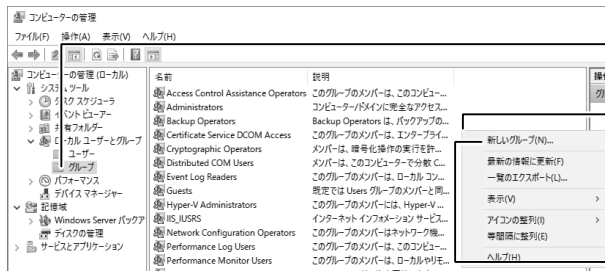
② [コンピューターの管理] をクリック

3



[ローカルユーザーとグループ] をダブルクリック

4

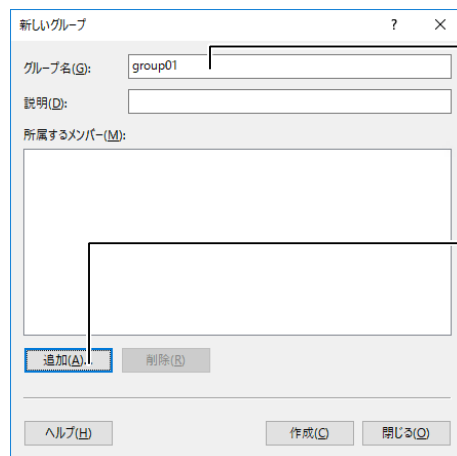


① [グループ] をクリック

② 右側のスペースを右クリック

③ [新しいグループ] をクリック

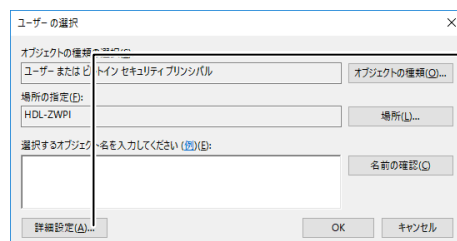
5



① [グループ名] を入力

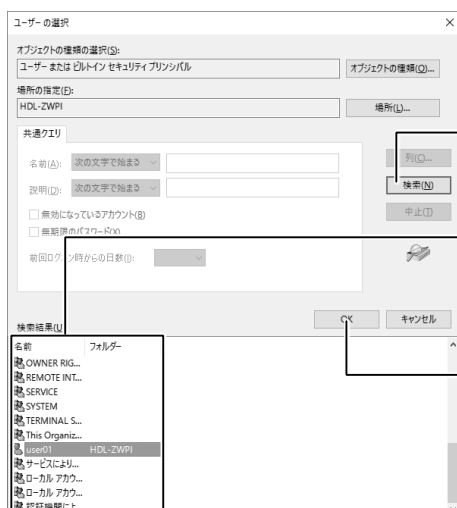
② [追加] をクリック

6



[詳細設定] をクリック

7

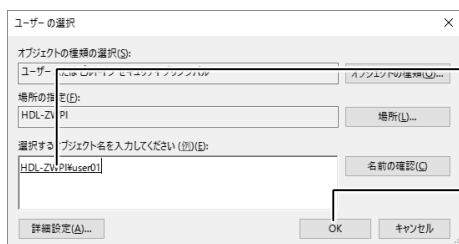


① [検索] をクリック

② グループに登録するユーザーを選択

③ [OK] をクリック

8



① 選択したユーザーが表示されていることを確認

② [OK] をクリック

9



① 選択したユーザーが表示されていることを確認

② [作成] をクリック

③ [閉じる] をクリックし、グループがリストに登録されたことを確認する

以上で、グループの作成は完了です。次に共有フォルダーを作成します。


グループ単位で共有フォルダーへのアクセス設定をする場合

アクセス設定時に、グループ名を入力する必要があります。

そのため、グループ名をメモすることをおすすめします。

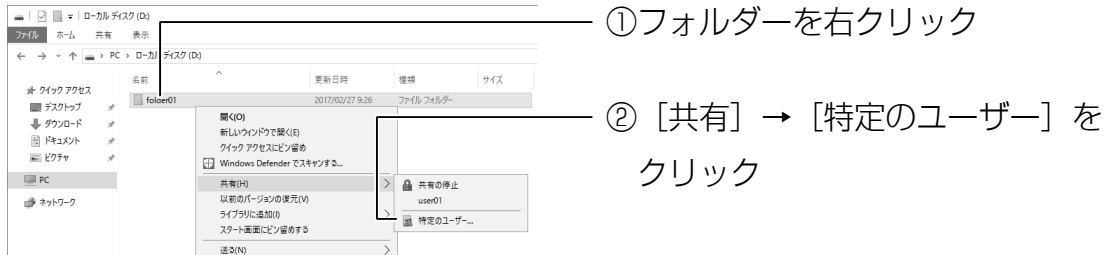
共有フォルダーを作成する

Dドライブに「folder01」を作成し、「user01」にのみアクセス許可設定する手順です。

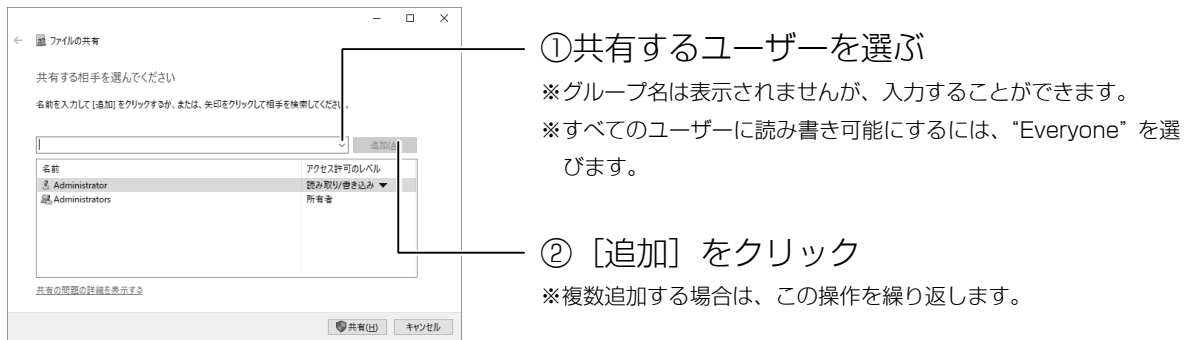
1  をクリックし、共有するフォルダーを作成する

※ここでは例として、Dドライブに folder01 フォルダーを作成します。

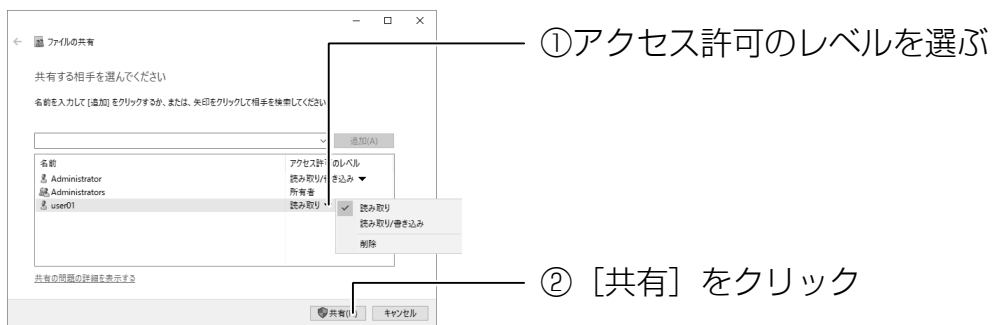
2



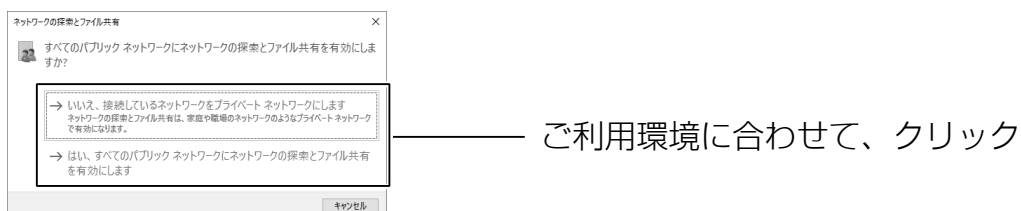
3



4



5



6



[終了]をクリック

以上で、共有フォルダーの作成は完了です。

ご注意

- 本製品では、ユーザー "Guest" のアカウント初期設定は、"無効" になっています。すべてのユーザーからアクセス可能な共有フォルダーを作成する場合、以下の手順にて、ユーザー "Guest" のアカウントを有効にしてください。
- ① [サーバーマネージャー] を開き、[ツール] → [コンピューターの管理] を順にクリックします。
- ② [ローカルユーザーとグループ] をクリックします。
- ③ [ユーザー] をクリックし、右側のユーザーが表示されている [Guest] を右クリックして、[プロパティ] をクリックします。
- ④ [アカウントを無効にする] のチェックを外し、[適用] ボタンをクリックします。

ネットワークドライブの割り当て方法

本製品をネットワーク上から参照する際に、ネットワークドライブとして割り当てておくことができます。

- ①ネットワークに接続されているパソコンから、本製品の共有フォルダーを表示する



②ネットワークドライブとして割り当てる共有フォルダーを右クリック

③ [ネットワークドライブの割り当て] をクリック



④本製品に割り当てる文字を選ぶ

⑤ [ログオン時に再接続する] にチェック

⑥ [完了] をクリック

これでネットワークドライブの割り当ては完了しました。

[コンピューター] などを開き、割り当てられたドライブが認識されていることをご確認ください。

バックアップと回復

万が一に備えて定期的にバックアップすることをおすすめします。

ここでは、以下の2種類の方法を説明しています。

- ・ [【Windows Server バックアップ機能】 \(23 ページ\)](#)
- ・ [【クローン for Windows】 \(29 ページ\)](#)

それぞれ以下のような特長がありますので、お客様の運用にあったバックアップ方法をお選びください。

最適なバックアップ方法の選び方

提案内容	最適なバックアップ機能
NAS 本体のハードウェア障害対策	・ Windows Server バックアップ ・ クローン for Windows
ランサムウェアなどマルウェア対策	Windows Server バックアップ

バックアップ機能の特長

	Windows Server バックアップ	クローン for Windows
バックアップ方法	イメージバックアップ	ファイルバックアップ
世代管理	あり	なし
バックアップタイミング	スケジュール	スケジュール
NAS 故障時の復旧方法	LAN DISK Z へ復元	LAN DISK Z へ復元
ファイル誤操作時の復旧方法	LAN DISK Z へ復元	・ LAN DISK Z へ復元 ・ Windows パソコンに接続して復元
NarSuS での管理	未対応	対応

Windows Server バックアップは OS を含めて丸ごとバックアップが可能で、更に世代管理ができる利点があります。

一方、クローン for Windows はクライアント OS の Windows パソコンに取り付けてデータを参照できる利点があります。

それぞれの利点を比較し、実運用により適したバックアップ方法を選びます。

また、これらのバックアップに加え「ボリュームシャドウコピー」機能を使用することにより、ファイルの誤削除といったオペレーションミスにも対応できるようになります。


Windows Server バックアップ機能


ご注意

- バックアップを実行する際に、USB HDD のフォーマットをおこないます。
事前に、必要なデータは他のドライブにコピーするなどバックアップしてください。

バックアップのスケジュール設定をする

- 1 [サーバーマネージャー] を開き、[ツール] → [Windows Server バックアップ] をクリックし、左側の [ローカルバックアップ] をクリック

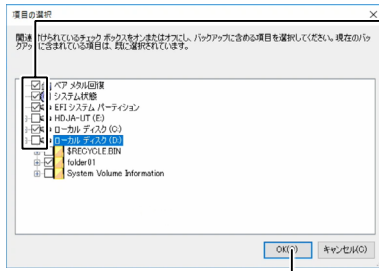
- 2  画面右側の [バックアップスケジュール] をクリック
⇒ 「バックアップスケジュールウィザード」が起動します。
画面の指示にしたがってください。

- 3  ①バックアップ構成を選ぶ
※ [サーバー全体 (推奨)] を選んだ場合は、手順 7 へお進みください。

- ② [次へ] をクリック

- 4  [項目の追加] をクリック

5



①バックアップ項目を選ぶ

※次の項目を選びます。

[ベアメタル回復] [システム状態]

[ローカルディスク C]

[ローカルディスク D] (バックアップするフォルダーのみ)

② [OK] をクリック

6



内容を確認し、[次へ] をクリック

7



①バックアップ時刻と頻度を設定

② [次へ] をクリック

8



① [バックアップ専用のハードディスクにバックアップする (推奨)] を選ぶ

② [次へ] をクリック

9



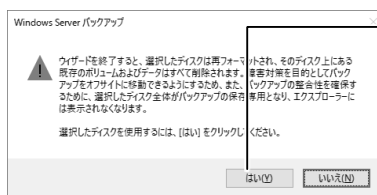
①バックアップの保存先を選ぶ

ご注意

●バックアップ先の HDD はフォーマットされます。
必要なデータは、事前にバックアップしてください。

② [次へ] をクリック

10



内容を確認し、[はい] をクリック

※外付けハードディスクはバックアップの保存専用となり、
エクスプローラーには表示されなくなります。

11



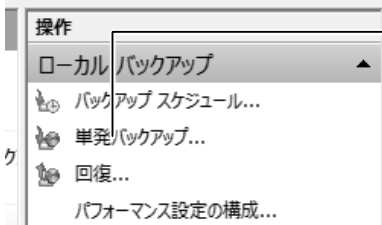
内容を確認し、[完了] をクリック

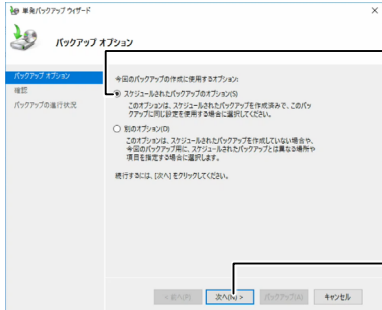
バックアップ先の HDD がフォーマットされ、バックアップ
スケジュールが作成されます。

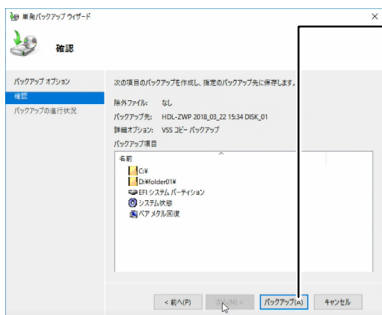
以上で設定は完了です。[閉じる] をクリックしてください。

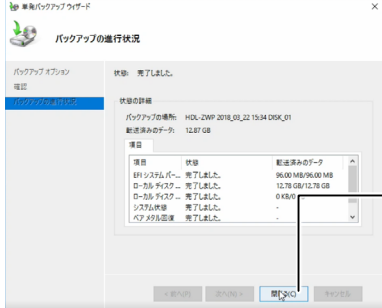
バックアップスケジュール設定の動作確認 (単発バックアップ)

1 [サーバーマネージャー]を開き、[ツール]→[Windows Server バックアップ]をクリックし、左側の[ローカルバックアップ]をクリック

2  画面右側の [単発バックアップ] をクリック
⇒「単発バックアップウィザード」が起動します。画面の指示にしたがってください。

3  ① [スケジュールされたバックアップ オプション] を選ぶ
② [次へ] をクリック

4  [バックアップ] をクリック
⇒単発バックアップを開始します。しばらくお待ちください。

5  完了したら、[閉じる] をクリック

項目	状態	転送済みのデータ
バックアップの構成	完了しました。	0 KB/0 KB/0 KB/0 KB
ローカルディスク	完了しました。	12.78 GB/12.78 GB
ローカルディスク	完了しました。	0 KB/0 KB
システム状態	完了しました。	-
バックアップの構成	完了しました。	-

以上で単発バックアップは完了です。
[最新のバックアップ] の [状態] が「成功」になっていることをご確認ください。

状態

最新のバックアップ(L)

状態: ✔ 成功

時刻: 2018/03/22 15:39

[詳細を表示](#)


バックアップデータから回復する

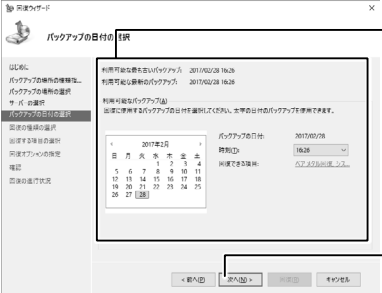
バックアップしたファイルおよびフォルダーを、本製品へ回復する方法を説明します。

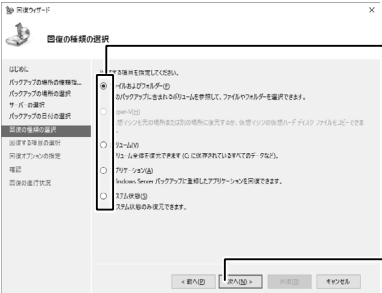
バックアップデータからリカバリーする場合は、[【バックアップデータから復元する場合】](#) (55 ページ) 以降をご覧ください。

- 1 [サーバーマネージャー]を開き,[ツール]→[Windows Serverバックアップ]→[ローカルバックアップ] をクリック

- 2  画面右側の [回復] をクリック

- 3  ① [このサーバー] を選ぶ
② [次へ] をクリック

- 4  ①回復に使うバックアップデータの時刻を選ぶ
② [次へ] をクリック

- 5  ①バックアップの保存先の種類を選ぶ
② [次へ] をクリック

6



①回復項目を選ぶ

② [次へ] をクリック

7



①回復オプションを選ぶ

② [次へ] をクリック

8



内容を確認し、[回復] をクリック

完了すると、ウィザード内の [状態] へ完了のメッセージが表示されます。
[閉じる] をクリックし、復元されたファイルまたはフォルダーを確認してください。

クローン for Windows

クローン for Windows (以下、クローン) は、LAN DISK 上の共有フォルダーを外付け HDD に同期するためのツールです。

LAN DISK に障害が発生したときに備え、外付け HDD にデータとネットワーク設定情報を同期できます。

いざというときは、外付け HDD からデータとネットワーク設定情報を復元できます。データを復元するのに容量に応じた時間が掛かりますが、低コストで備えることが可能です。

同期先と復元内容

同期先	復元できる内容	
外付けHDD	ネットワーク情報	コンピューター名 ドメイン名(ワークグループ) IP アドレス
	ユーザー情報	
	グループ情報	
	共有情報	フォルダー ファイル

[制限事項]

- 世代管理はできません。(世代管理をおこなう場合は、世代管理が可能なバックアップソフトの併用をおすすめします。)
- システムファイルの同期はできません。システムファイル(フォルダー)は、同期時の対象数に含まれません。
- NTFS ファイルシステムにより暗号化されたフォルダー/ファイルの同期はできません。
- NTFS ファイルシステムにより圧縮されたフォルダー/ファイルは同期できますが、同期先では圧縮は外れます。

クローンの削除方法について

クローンを削除する LAN DISK で [CloneMenu.exe] を起動し、ボタンをクリックして画面の指示にしたがってください。(すでにクローンがインストールされている場合、どのボタンをクリックしても削除をおこないません。)

※クローンがインストールされていない場合は、インストールされます。

※コントロールパネルの [プログラムのアンインストール] からでも削除できます。

クローンをバージョンアップする場合

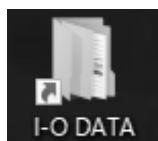
クローンバージョン 2.30 より、バージョンアップの際に、古いバージョンのクローンを削除する必要はありません。

※自動アップデート機能が追加になったことにより、新しいバージョンをアップデートインストールすることが可能になりました。

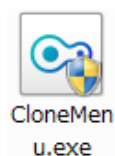
クローン for Windows をインストールする

※クローンのインストール時に、OS は再起動されません。

- 1 デスクトップの[I-ODATA] フォルダを開く



- 2 [Clone for Windows] → [CloneMenu.exe] をダブルクリック



- 3



[マスター機用インストーラー] を
クリックする

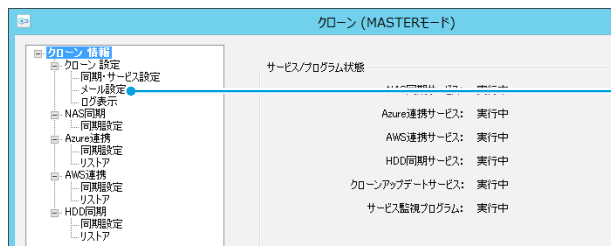
以降は、画面の指示にしたがってインストールしてください。

メール設定をする

クローンが同期に失敗した時など、メールで通知することができます。

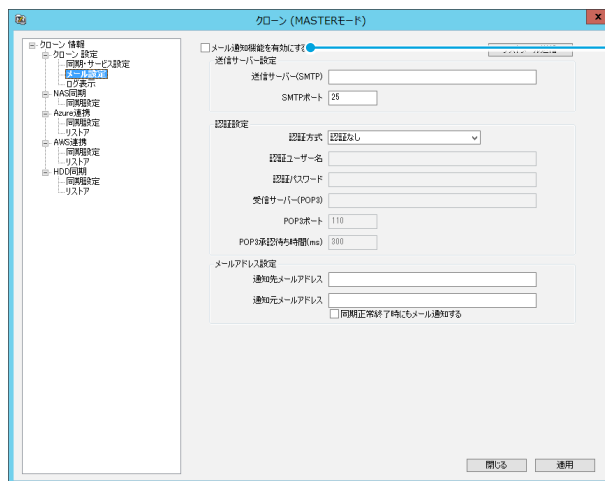
- クローンを起動する
⇒クローンマネージャーが開きます。

2



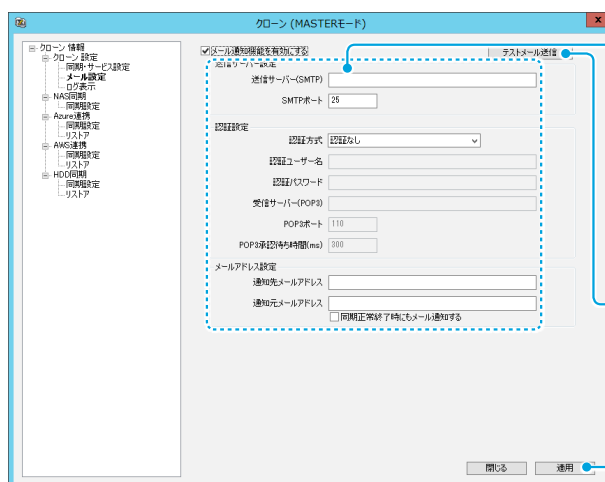
[メール設定] をクリック

3



[メール通知機能の有効にする] を
チェック

4



① メールに関する設定を入力

② [適用] をクリック
⇒ 設定が保存されます。

③ [テストメール送信] をクリックし、
メールが届くことを確認する

Gmail を利用する場合

次の設定をおこなってください。

● Gmail のアカウント設定

※次の手順は 2015 年 6 月時点のものです。最新の各手順は Gmail のヘルプをご覧ください。

次の設定 1 または 2 のどちらかを設定します。

・設定 1：[安全性の低いアプリの許可] を有効に設定

Google アカウントでログイン後、[アカウント情報] の [ログインとセキュリティ] から、[接続済みのアプリとサイト] の [安全性の低いアプリの許可] を有効にします。

・設定 2：2 段階認証プロセスを設定

※ 2 段階認証プロセスを設定すると、他の Google アプリ用のパスワードの生成や設定など更に作業が必要になる場合があります。

① Google アカウントでログイン後、[アカウント情報] の [Google へのログイン] から、[パスワードとログイン方法] の [2 段階認証プロセス] を有効に設定します。

② Google アカウントでログイン後、[アカウント情報] の [Google へのログイン] から、[パスワードとログイン方法] の [アプリのパスワード] で、本製品用のパスワードを生成します。

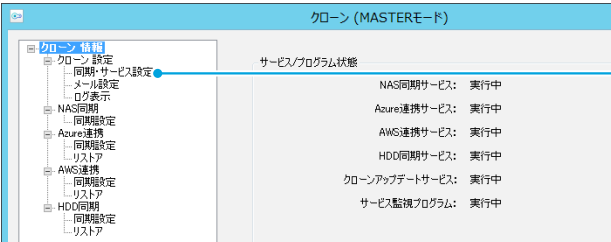
● クローンのメール設定

送信サーバー (SMTP)	smtp.gmail.com
SMTP ポート	587
認証方式	SMTP AUTH(通信路を暗号化する)
認証ユーザー名	Google アカウントのユーザー名
認証パスワード	Google アカウントのパスワード (2 段階認証の場合、接続用に生成したパスワード)

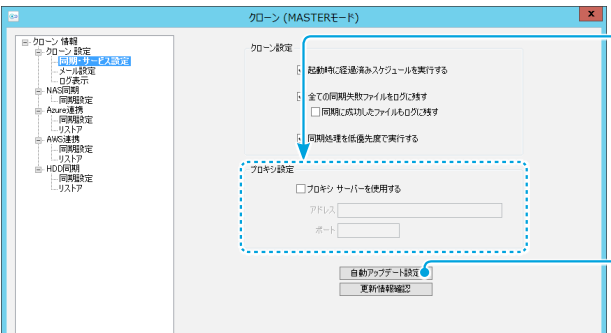
自動アップデート設定

新しいバージョンのクローンを確認し、自動でアップデートするように設定します。
自動アップデートをおこなうためには、インターネットに接続されている必要があります。

- クローンを起動する
⇒クローンマネージャーが開きます。

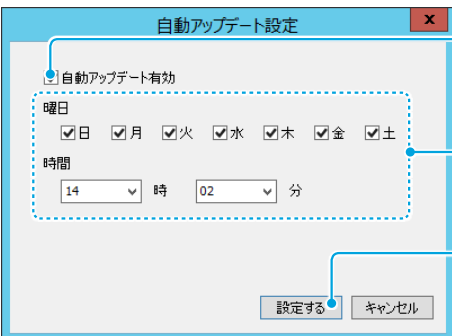
- 

[同期・サービス設定] をクリック

- 

①インターネット接続に必要な場合、プロキシを設定する

②[自動アップデート設定] をクリック

- 

① [自動アップデート有効] にチェック

② [曜日] [時間] を設定

③ [設定する] をクリック

これで設定は完了です。上記クローンマネージャーを閉じてください。
クローンマネージャーが開いたままだと自動アップデートは実行されません。

外付け HDD への同期設定をする

事前に同期する LAN DISK に外付け HDD が接続されていることを確認してください。

同期の前にご確認ください

- 同期先の外付け HDD の各フォルダー内にあるデータは、クローンから同期を実行すると削除されます。必要なデータは事前にバックアップしておいてください。

同期時の制限

- 登録できる最大ジョブ数は、15 個までです。
- 1 ジョブあたり同期可能な最大ファイル数は、64bit 時は 480 万ファイル、32bit 時は 15 万ファイルまでです。(フォルダーを含む)

増分同期とフル同期の違いについて

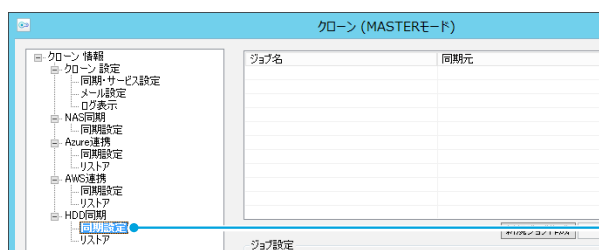
- 増分同期…前回の同期から変更があったファイルやフォルダーのみを同期します。
- フル同期…同じファイルやフォルダーがあってもすべて上書きして同期します。

VSS を利用する」オプションについて

通常ロックされている（編集中等）ファイルのコピーはできませんが、「VSS を利用する」オプション設定を用いると、その「スナップショット（現在の状態）」を作成し、ロック中のファイルも含めてコピーを完了することができます。

1 クロْنَを起動する

2



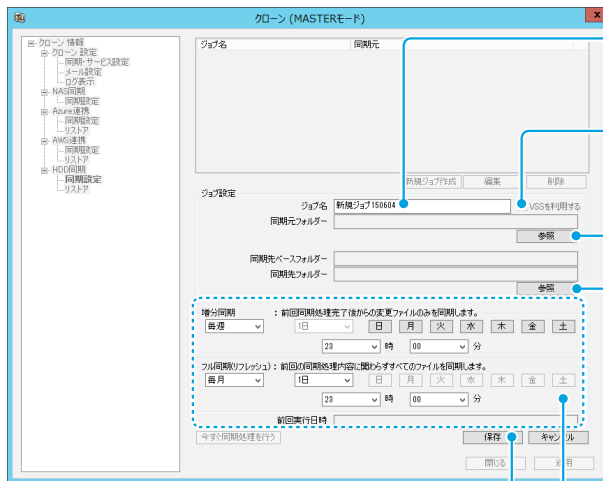
[HDD同期] の[同期設定] を
クリック

3



[新規ジョブ作成] をクリック

4



① [ジョブ名] を入力

② VSSを利用する場合は、チェックをつける

※VSSについては、前ページを参照

③ [参照] をクリックし、同期元のフォルダーを選ぶ

④ [参照] をクリックし、同期先のフォルダーを選ぶ

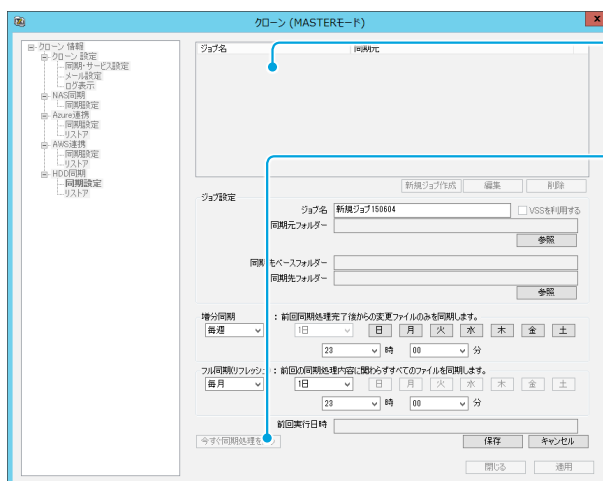
⑤ スケジュールを設定

毎週	複数の曜日とひとつの時刻を設定
毎月	ひとつの日にちとひとつの時刻を設定

⑥ [保存] をクリック
⇒ジョブが追加されます。

これで同期ジョブが登録されました。

5 同期設定が正しいことを確認するため、今すぐ同期を実行



① 追加されたジョブを選択

② [今すぐ同期処理を行う] をクリック

最初の同期処理がおこなわれます。

同期が完了したら、[ログ表示] をクリックして、同期が正常に実行されたことを確認します。

外付けHDD から復旧する

LAN DISK がダウンしてしまった場合など、外付けHDD に同期したデータから復旧できます。

- 1 LAN DISKの修理が終わったり、スペアのLAN DISKがある場合は、それらの設定をマスター機のものにする

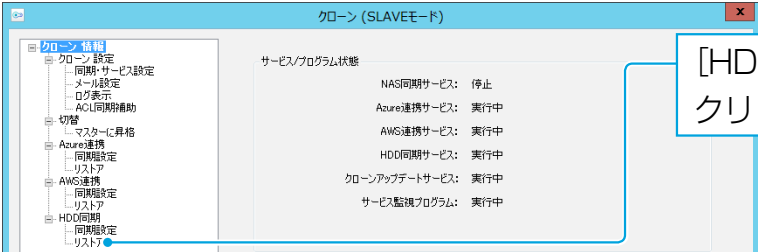
※ [【クローン for Windows をインストールする】 \(30ページ\)](#) の手順 1 参照

※ ユーザー、グループも設定しなおしてください。

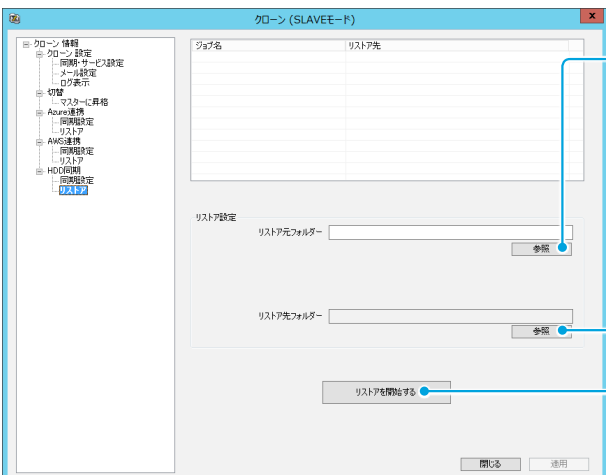
- 2 マスター機用クローンをインストールする

- 3 同期した外付けHDDをつなぐ

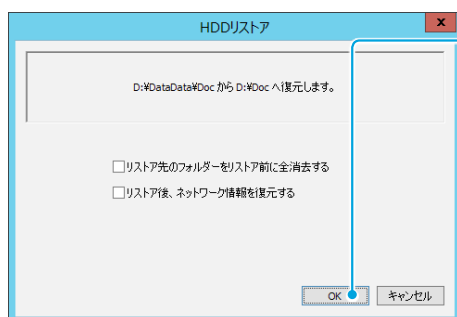
- 4 クローンを起動する

- 5
 

[HDD同期] の[リストア] をクリック

- 6
 
 - ① [リストア元フォルダー] の[参照] クリックし、復旧元のフォルダーを選ぶ
 - ② [リストア先フォルダー] の[参照] クリックし、復旧先のフォルダーを選ぶ
 - ③ [リストアを開始する] をクリック ⇒ データが復旧されます。

7



[OK] をクリック

[リストア先のフォルダーをリストア前に全消去する] にチェックをつけると

リストア先に指定したフォルダー以下を全消去した後、リストアを開始します。

[リストア後、ネットワーク情報を復元する] にチェックをつけると

リストア後、同期されているネットワーク情報を復元します。

● 復元されるネットワーク情報

コンピューター名

ドメイン名 (またはワークグループ)

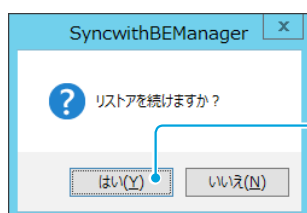
IP アドレス

ユーザー情報

グループ情報

共有フォルダー情報

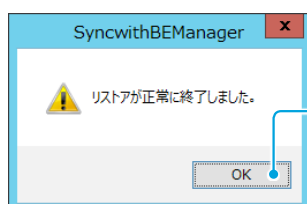
8



[はい] をクリック

※ リストアを開始します。

9



[OK] をクリック

Windows パソコンからデータを参照したい場合

LAN DISK ではない他の Windows サーバーや Windows パソコンからデータを参照したい場合、クローン for Windows のバックアップ先 USB HDD を直接 USB 接続することにより、エクスプローラー等からデータを参照することができます。

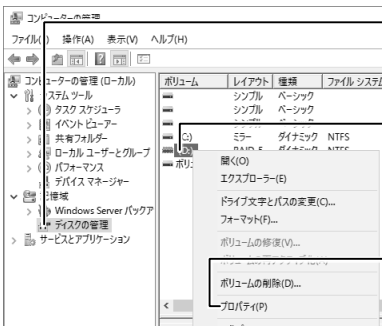
ディスクとボリュームの活用

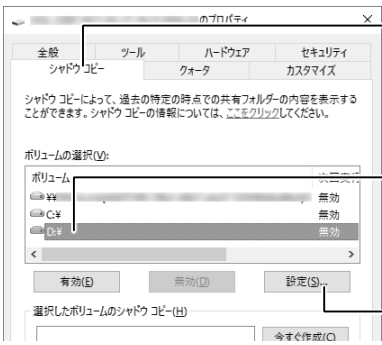
シャドウコピー設定

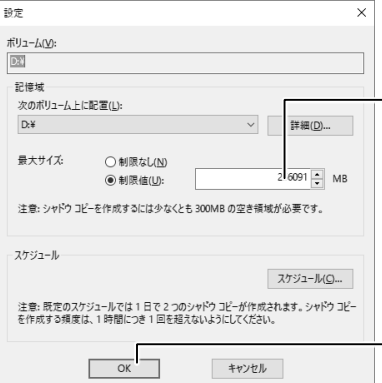
シャドウコピーは、ファイルが使用中かどうかに関わらず、その状態のコピーを作成する機能です。シャドウコピーしたデータを利用してファイルの復元などをおこなうことができます。

シャドウコピーを設定する

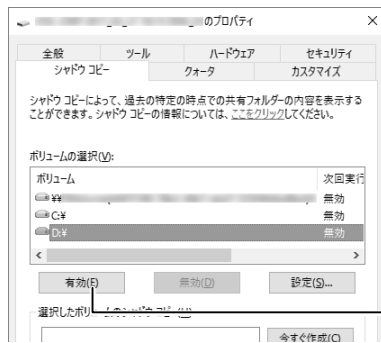
- 1 [サーバーマネージャー]を開き、
[ツール]→[コンピューターの管理]をクリック

- 2  ① [ディスクの管理]をクリック
② シャドウコピーを作成するボリュームを
右クリック
③ [プロパティ]をクリック

- 3  ① [シャドウコピー]をクリック
② シャドウコピー設定するボリュームを
選ぶ
③ [設定]をクリック

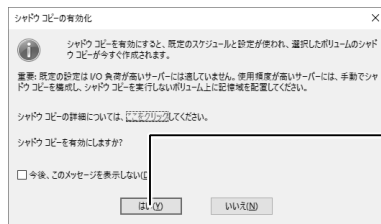
- 4  ① シャドウコピーの最大サイズを設定
② [OK]をクリック

5



[有効] をクリック

6

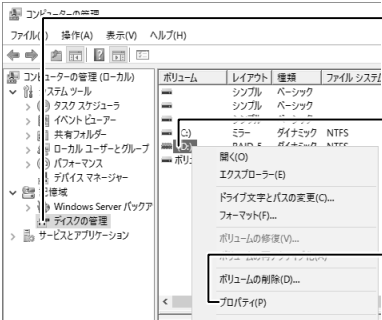


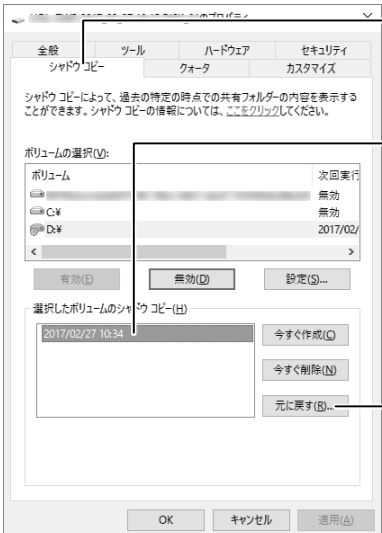
[はい] をクリック

以上で設定は完了です。

シャドウコピーからドライブの内容をまるごと復元する


- 1 [サーバーマネージャー]を開き、
[ツール]→[コンピューターの管理]をクリック

- 2
 
 - ① [ディスクの管理]をクリック
 - ② 復元するボリュームを右クリック
 - ③ [プロパティ]をクリック

- 3
 
 - ① [シャドウコピー]をクリック
 - ② 復元する日時を選ぶ
 - ③ [元に戻す]をクリック


ご注意

- 復元すると、選択した日時より後におこなわれたシャドウコピーはすべて削除されます。
- 復元を開始後は、途中でキャンセルできません。

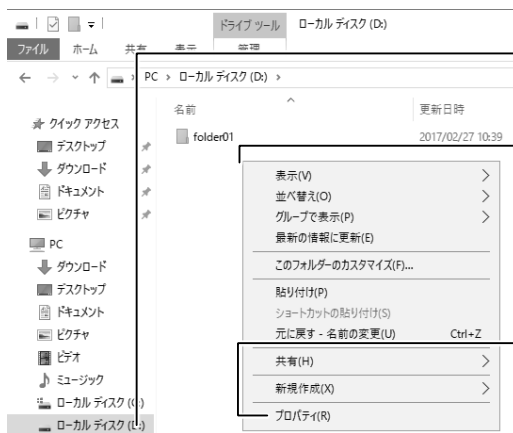
- 4
 
 - ① [このボリュームを元に...]にチェック
 - ② [今すぐ元に戻す]をクリック

以上で復元は完了です。

ファイル単位で復元する

1  をクリック

2



①復元するファイルがあるドライブを開く

②空白部分を右クリック

③ [プロパティ] をクリック

3



① [以前のバージョン] をクリック

②復元するファイルが含まれたバージョン
を選ぶ

③ [開く] をクリック

フォルダーが開きますので、ファイルをコピー&ペーストすると復元できます。

UPS 設定

NarSuS で確認可能になる項目

LAN DISK Z シリーズに接続された、対応 UPS のステータス情報を NarSuS で確認することができます。

本機能をご利用いただく際には、以下の UPS 用自動シャットダウンソフトとの併用を推奨します。以下の対応 UPS 用自動シャットダウンソフトと併用すると、多くの通知をすぐに受け取ることができます。

メーカー	ソフト名
オムロン	PowerAct Pro (Master Agent)
	PowerAttendant Lite

NarSuS のみで確認可能になる項目



項目	オムロン製 UPS
製品名	○
バッテリー稼働開始日	○ ※ 1 ※ 2
バッテリー残量	○ ※ 3
F/W Version	○
シリアル番号	○
UPS 内部温度	○
バッテリー状態 (バッテリー劣化情報)	○

- ※ 1 オムロン製ソフト “PowerAct Pro” 等で、対応 UPS にあらかじめ [バッテリー交換日] を設定してください。
- ※ 2 未設定の場合は NarSuS へ UPS 情報が最初に通知された日が表示されます。
- ※ 3 通知時点 (NarSuS の定期通知やイベント通知のタイミング) でのバッテリー残量を表示します。

各社 UPS 用自動シャットダウンソフトを併用すると確認可能になる項目

・ UPS イベント通知

※ 対応イベント情報は、NarSuS を通じてすぐに通知可能となります。



ご注意

- 対応 UPS は以下の弊社 Web ページを参照ください。
<https://www.iodata.jp/pio/io/nas/landisk/ups.htm>
- NarSuS ソフトが認識できる UPS は 1 台のみです。
- 本機能は、LAN DISK Z シリーズと対象 UPS が USB 接続時のみ対応です。
- NarSuS ソフトは最新版をご利用ください。

UPS との電源連動方法について

本 NAS は、停電が発生し UPS 連動シャットダウンが行われた後、復電時にはシャットダウンされたままとなります。
(出荷時設定)

復電時に NAS を自動起動させたい場合は、以下の設定をおこなってください。

- 準備：NAS にディスプレイ、マウス、キーボードを接続します。
- ① NAS の電源投入直後より、USB キーボードの [F2] キーを押しつづける
→ BIOS 設定画面が起動します。
- ② カーソルキーで [チップセット] → [AC 停電解消後の回復] を選び、[Enter] キーを押す
- ③ 「コンピュータは起動します」を選び、[Enter] キーを押す

コンピュータは AC 電源が切れたときの電源状態になります	電源復電後、前回の電源状態を維持します。(出荷時設定)
コンピュータは起動します	電源復電後、本製品が起動します。
コンピュータは起動しません	電源復電後、本製品を電源オフのままにします。

- ④ [終了] → [変更を保存して終了] を選び、[Enter] キーを押す
- ⑤ 「Save configuration and reset?」で [Yes] を選び、[Enter] キーを押す

NarSuS ソフトのアップデート

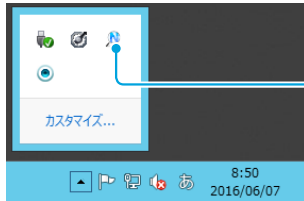
自動アップデートの場合

自動アップデートが有効となっている場合は、以下の操作は必要はありません。

添付ソフトウェア ZWS Manager もアップデートされます

アップデートを実行すると、添付ソフトウェアの ZWS Manager もアップデートされます。

1 NarSuS 設定画面を開く

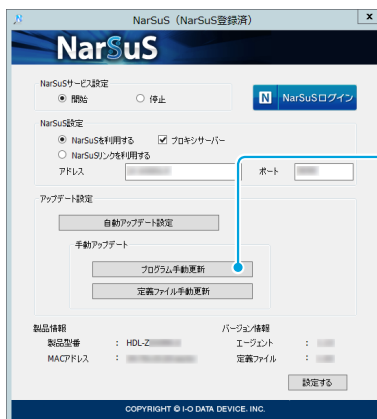


タスクトレイのアイコンをクリック

タスクトレイにアイコンが無い場合

[スタート] → [IODATA] → [NarSuS] をクリックしてください。

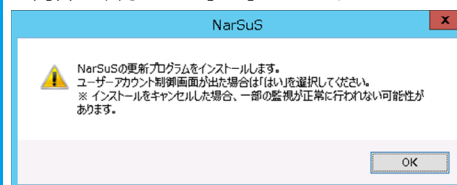
2



[プログラム手動更新] をクリック

以下の画面が表示された場合

▼内容を確認して、[OK] をクリック



▼ユーザーアカウント制御では、[[はい] をクリック



この後、画面の指示にしたがってアップデート後、NAS を再起動してください。

以下の画面が表示された場合

[OK] をクリックして、再起動してください。



UPS 用ソフトのインストール

オムロン製 UPS 用ソフトウェアをインストールします。

1 NAS の USB ポートに CD-ROM が読み込めるドライブをつなぐ

2 UPS 付属の CD-ROM をドライブにセットする

3 クリック

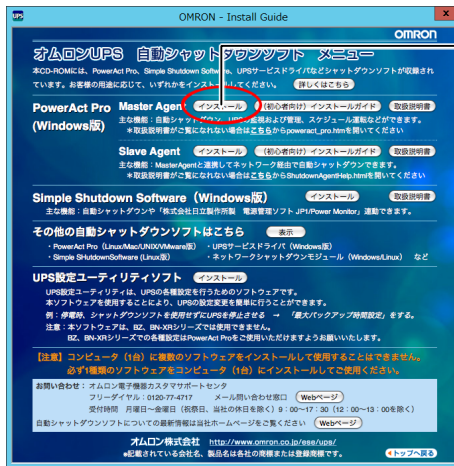
上記画面が表示されない場合

CD-ROM の software フォルダ内 [OMRON_Autorun.exe] を実行してください。

4 [OMRON_Autorun.exe の実行] を
クリック

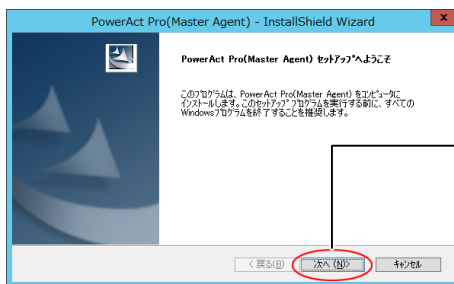
5 [既に登録済み/後で登録する] を
クリック

6



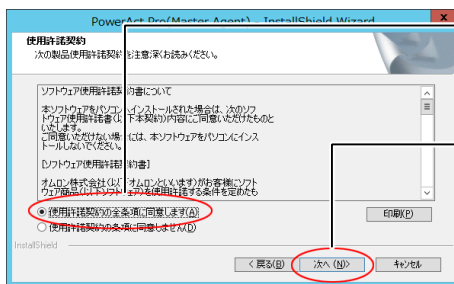
「PowerAct Pro Master Agent」の
「インストール」をクリック

7



「次へ」をクリック

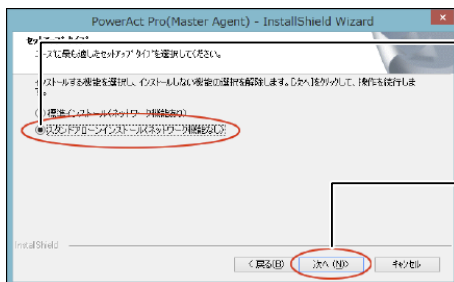
8



① 「使用許諾契約の全条項に同意します」
を選択

② 「次へ」をクリック

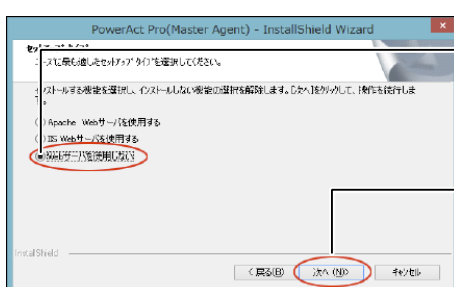
9



① 「スタンドアロンインストール (ネット
ワーク機能なし)」を選択

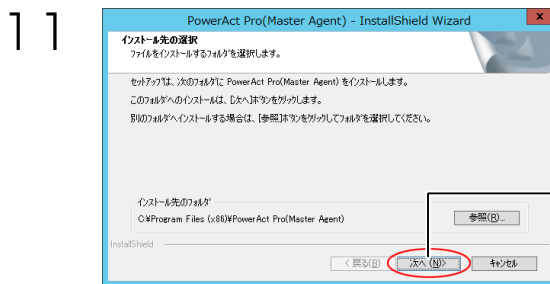
② 「次へ」をクリック

10

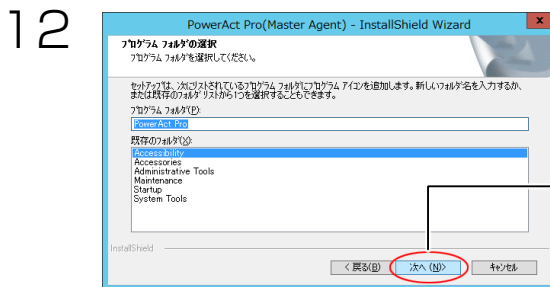


① 「Web サーバーを使用しない」を選択

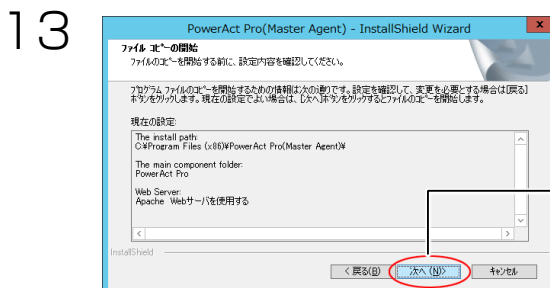
② 「次へ」をクリック



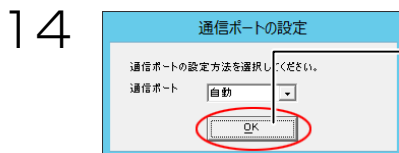
次に PowerAct Pro (Master Agent) のインストールを開始します。
画面の指示にしたがってください。
[次へ] をクリック



[次へ] をクリック



[次へ] をクリック



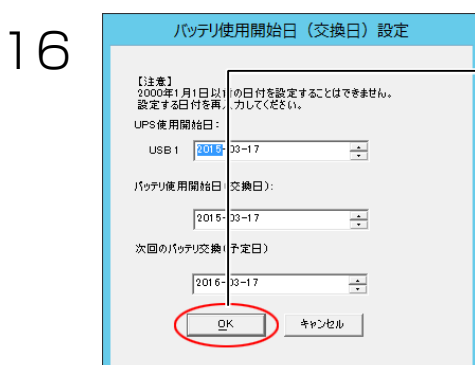
[OK] をクリック



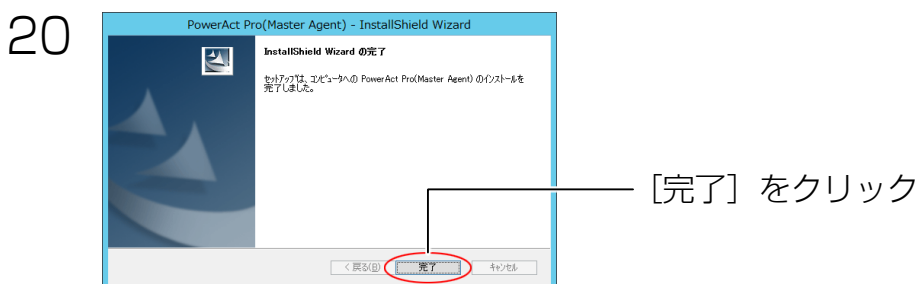
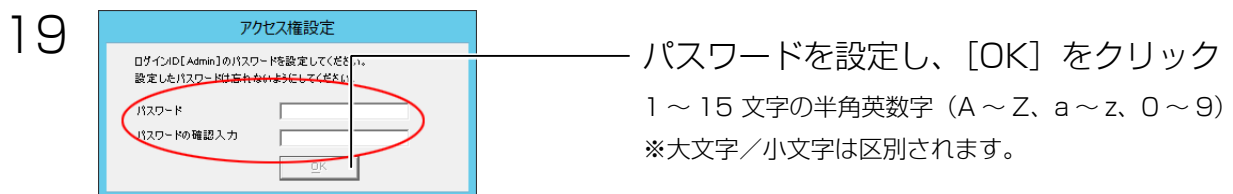
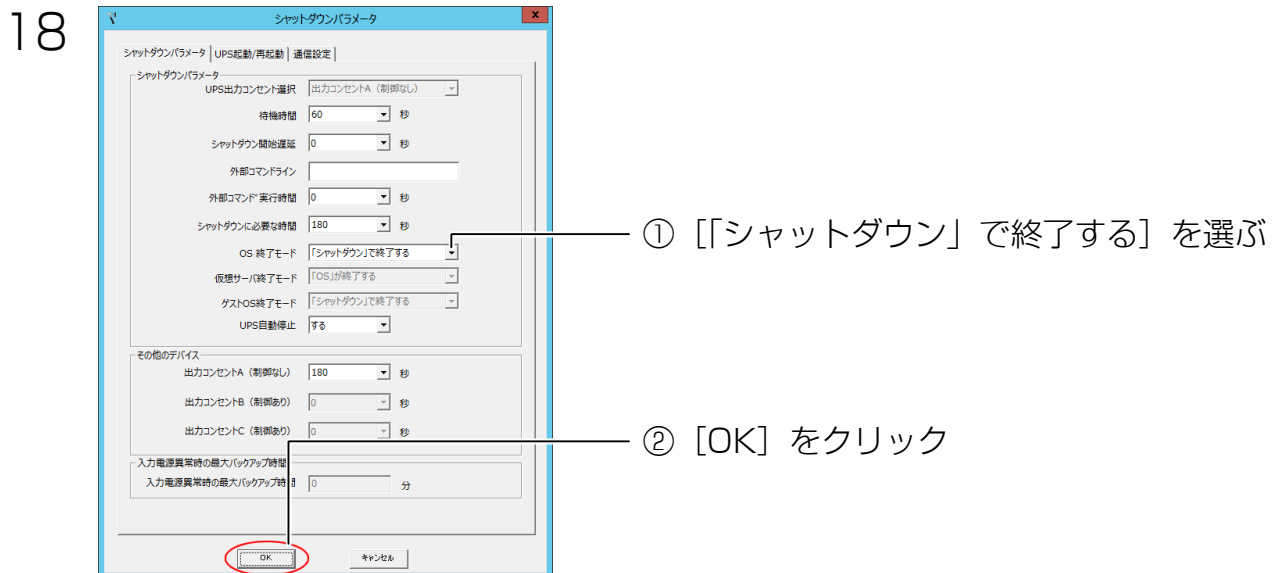
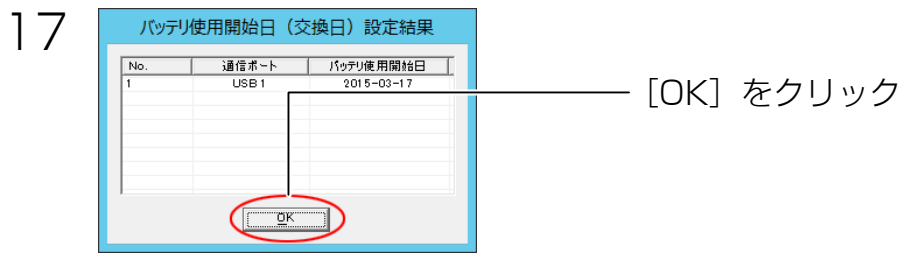
[OK] をクリック

「通信ポートテスト結果」が空欄の場合

本ソフトウェアとUPSの通信ができていません。インストール上は問題ありませんので、[OK] ボタンをクリックして手順20にお進みください。(手順16～17は表示されません。)



各日付を設定し、[OK] をクリック



22 CD-ROM をドライブから取り出す

以上で、UPS 用ソフトのインストールは完了です。

UPS 情報を確認する

NarSuS にアクセスして、UPS 情報を確認します。※以下の画像は、2018年2月現在のものです。

▼ NarSuS トップ画面



設定

通知のしきい値を設定できます。



イベント情報

NASおよびUPSのイベント通知を表示します。

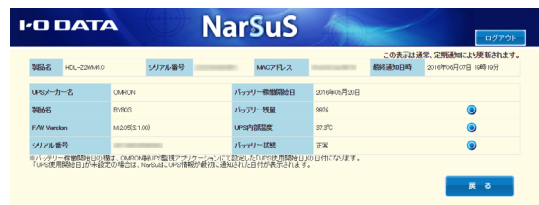


NarSuS 対応UPSのアイコン表示

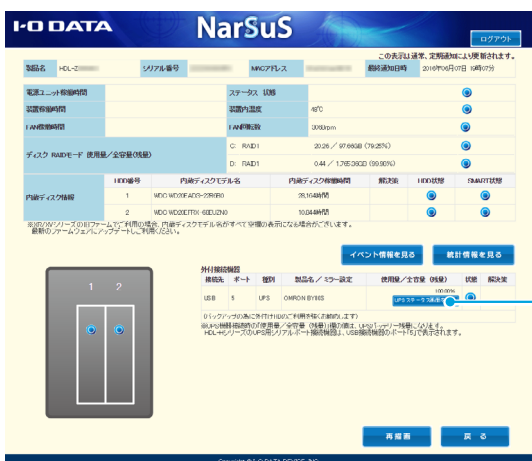
		正常動作
		警告
		異常状態

※ [OM] : オムロン製 UPS の意

[外付け接続機器一覧] のUPSのアイコンをクリックすると、UPSステータス



NASのステータス情報



故障時の対応

故障と思ったら…

故障したカートリッジの HDD ランプは赤点灯します。

本製品の HDD ランプをご確認の上、カートリッジを交換してください。

カテゴリ	動作状態	STATUS	HDD	ブザー*	動作内容	対処
通常稼働時	通常状態	緑点灯	緑点灯	なし	正常動作中	なし
RAID 再構築	RAID モード RAID 再構築中	緑点滅	緑点滅	ピロツ	RAID 再構築中	RAID を再構築中です。再構築が完了するまで HDD の抜き差しを行わないでください。
エラー	システムエラー デグレード	赤点滅	該当 HDD 赤点灯	ピッピッ、 ピッピッ …	デグレード発生時	至急ボリュームのバックアップを取ってください。構成ディスクにエラーがある場合は、そのディスクを新しいものに交換してください。
	システムエラー RAID 崩壊	赤点滅	全 HDD 赤点灯	ピーポー、 ピーポー …	RAID 崩壊時	至急ボリュームのバックアップを取ってください。ボリュームに対してチェックディスクを実行し、ファイルシステムに問題がないことを確認してください。ログ・メールより構成ディスクにエラーがある場合は、そのディスクを新しいものに交換してください。ボリュームにアクセスできなくなった場合は、ボリュームを再構築してください。
	システムエラー システムなし	赤点灯	全 HDD 赤点灯	なし	起動 HDD がない時	起動 HDD が接続されていません。HDD が正常に接続されていることを確認してください。
	システムエラー 温度異常	赤点灯	緑点灯	なし	温度異常の時	設置環境を確認し、FAN からの排熱が逃げやすい環境であることを確認してください。温度異常を検知したら自動的に電源が切れますので、再起動後に再び同じ現象が起きたら FAN が正常に稼働していることを確認してください。

* RAID 状態に変化があったときにブザーが鳴ります。ブザー音が鳴った場合、[Func] ボタンを押す、または、「ZWS Manager」上で [ブザー OFF] をクリックするとブザーが停止します。

オプション HDD

弊社製 HDLZ-OP シリーズ

※詳細な情報は、以下の弊社ホームページをご確認ください。

https://www.iodata.jp/pio/io/nas/landisk/nas_hdd.htm



ご注意

- オプション HDD には、システムはインストールされていません。
- 本製品の容量を後から増やすことはできません。

カートリッジの交換方法

本製品の電源が入っている状態で、HDD アンプラグをおこなうと、故障したカートリッジを交換できます。

ご注意

- RAID 崩壊した本製品のデータを復旧することはできません。万が一に備えて定期的にバックアップをお取りください。
- カートリッジ (HDD) は、故障時以外には取り外さないでください。不用意に取り外すと冗長性が失われたり、RAID 崩壊しすべてのデータを失い、修復不能な状態になる場合があります。
- 一度に取り外しできるカートリッジは、1 台のみです。
2 台以上を取り外すと RAID 崩壊し、保存されているデータを失うことがあります。
- マルチディスクの場合、ZWS Manager ではアンプラグできません。
タスクトレイの取り外しアイコンから取り外すか、本製品の電源を切ってから交換してください。
([【\[ステップ 2\] カートリッジを外す】 \(53 ページ\) 参照](#))

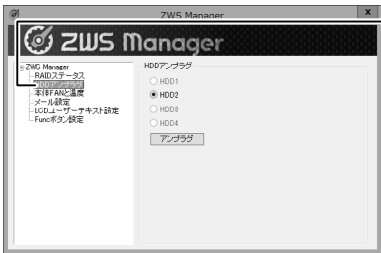
【重要】 HDD 1 を交換する場合は、必ず以下の手順にしたがってください

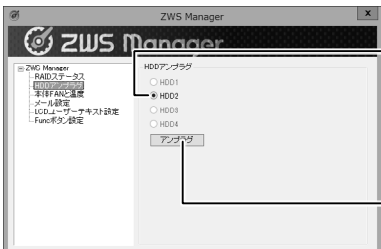
次の手順で設定をおこなわないと、起動しないなどのトラブルになるおそれがあります。必ず以下の手順にしたがってください。

- ① 本製品の電源を切り、HDD1 を入れ替える
- ② 本製品にディスプレイ、マウス / キーボードを直接つなぐ
- ③ 本製品の電源を入れ、起動メニューで [セカンダリ] を選択する
- ④ [コントロールパネル] から [システム] → [システムの詳細設定] を開く
- ⑤ [詳細設定] タブの「起動と回復」の [設定] をクリック
- ⑥ 「既定のオペレーティングシステム」で、[セカンダリ] を選択し設定する

[ステップ 1] HDD アンプラグ

1 タスクトレイのアイコンから、ZWS Manager を起動する

2  [HDD アンプラグ] をクリック

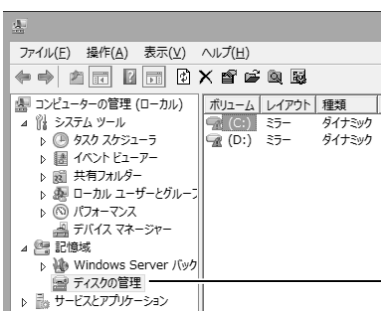
3  ①故障した HDD を選択
※故障した HDD は、HDD ランプが赤点灯します。
② [アンプラグ] をクリック


「アンプラグに失敗しました」と表示された

[アンプラグ] 処理ができていません。

本製品の電源を切り、[【ステップ 2】カートリッジを外す](#) (53 ページ) にお進みください。

4 [サーバーマネージャー] を開き、
[ツール] → [コンピューターの管理] をクリック

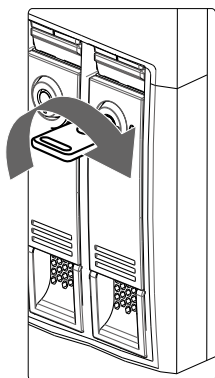
5  [ディスクの管理] をクリック

6  アンプラグしたディスクが
オフラインになっていることを確認

次に、故障したカートリッジを外します。次ページへお進みください。

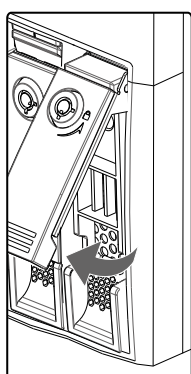
[ステップ2] カートリッジを外す

1



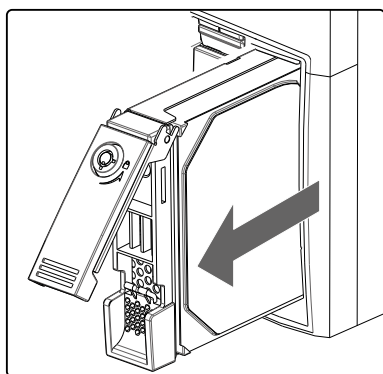
添付のロックキーを [カートリッジ固定ロック]
に合わせ横向きに挿し、
時計回りにまわして、[UNLOCK] にする
※ロックキーは、縦向きになります。

2



取り外すカートリッジの着脱レバーを開く

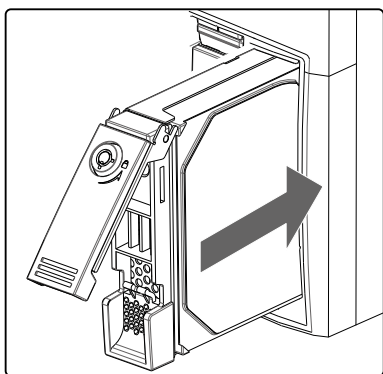
3



カートリッジを手前に引いて、取り出す

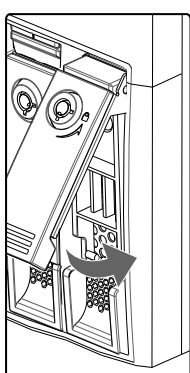
[ステップ3] カートリッジを取り付ける

1



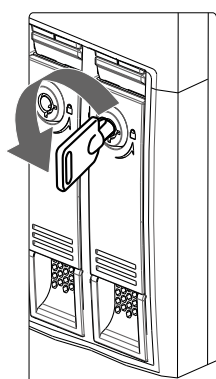
カートリッジをスロットの奥まで挿入する

2



"カチッ"と音が鳴るまで、着脱レバーをおろす

3



添付のロックキーを [カートリッジ固定ロック] に合わせ縦向きに挿し、反時計回りにまわして、[LOCK] にする

※ロックキーは、横向きになります。

以上で交換は終了です。

取り付け完了後、ZWS Manager の [自動再構成] が [有効] に設定されている場合は、自動的に RAID の再構築を開始します。

バックアップデータから復元する場合

- 1 バックアップデータが保存された USB HDD を本製品につなぐ
- 2 DVD ドライブにリカバリーメディアをセットし、本製品の電源を入れる
リカバリープログラムが起動します。

リカバリープログラムが起動しない場合

- BIOS 設定の変更が必要な場合があります。

以下の手順で BIOS 設定を変更してください。

①本製品の電源投入直後より、[F2] キーを押しつづけて、BIOS 設定画面を起動する

②カーソルキーで [起動] を選ぶ

③カーソルキーで [Boot Option #1] を選び、Enter キーを押す

④ [UEFI USB CD/DVD:UEFI: xxxx] を選び、Enter キーを押す

(xxxx は DVD ドライブのメーカー名とモデル名)

※ USB ドライブの起動優先順位を最も高く設定します。

⑤カーソルキーで [終了] → [変更を保存して終了] → [YES] を選び、Enter キーを押す

以上で BIOS 設定は変更されました。上記の手順 1 より再度実行してください。

- 3 “R” と入力し、Enter キーを押す

※ [R - Windows Recovery Environment を起動する] を選びます。

- 4 「キーボードレイアウトの選択」で、[Microsoft IME] をクリック

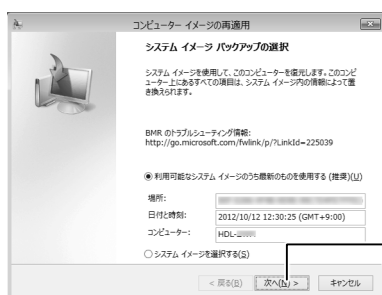
- 5 「オプションの選択」で、[トラブルシューティング] をクリック

※リカバリープログラムがドライブ C: に Windows システムを発見した場合、[続行] と表示されます。[続行] をクリックすると、リカバリープログラムを終了して、Windows を起動します。

- 6 「詳細オプション」で、[イメージでシステムを回復] をクリック

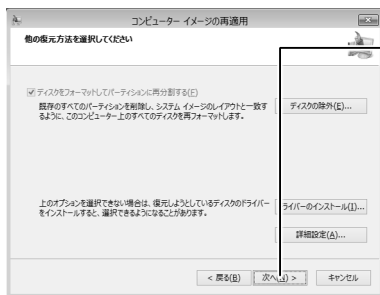
- 7 OS 選択が表示された場合は、[Windows Server 2016] をクリック

- 8



[次へ] をクリック

9



[次へ] をクリック

- ※バックアップ時と同じ個体に対してリカバリーをおこなう場合、チェックを外します。
- ※バックアップ時とは別の個体に対してリカバリーをおこなう場合、チェックを入れます。
- ※チェックができない場合は、ハードディスクに対して Diskpart の clean コマンドを実施してください。

Diskpart の clean コマンドの実施方法

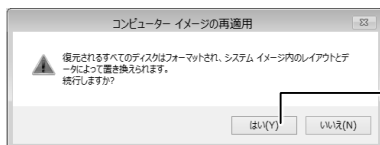
- ① USB HDD などの機器を取り外す
 - ※誤って対象以外のディスクを消さないためです。
- ② リカバリーメディアからコマンドプロンプトを起動する
 - ※ [詳細オプション] (前ページ手順 5) で [コマンドプロンプト] を選択します。
- ③ diskpart と入力し、[Enter] キーを押す
- ④ list disk と入力し、[Enter] キーを押す
- ⑤ すべてのカートリッジのディスク番号を確認
- ⑥ sel disk x(xは⑤で確認した番号) と入力し、[Enter] キーを押す
- ⑦ detail disk と入力し、[Enter] キーを押す (目的のディスクであることを確認)
- ⑧ clean と入力し、[Enter] キーを押す
- ⑨ ⑥～⑧を繰り返し、すべてのカートリッジで clean を実行する
- ⑩ exit と入力し、[Enter] キーを押す
- ⑪ 本製品をシャットダウンし、手順 2～10 をおこなう
 - ※チェックはグレーアウトしていますが、そのまま [次へ] をクリックしてください。

10



[完了] をクリック

11



内容を確認し、[はい] をクリック

ご注意

- [はい] をクリックすると、現在のディスク内容はすべて消去され、バックアップされていたイメージに置き換わります。

以上で復元処理は完了です。復元後は自動的に再起動しますので、リカバリーメディアを抜いてお待ちください。

Windows Update を実行する

Windows Update では、本製品にインストールされている OS の既知の脆弱性に対する最新のセキュリティパッチがインストールされます。

必ずはじめにおこなってください。

ご注意

- 本手順は、本製品がインターネットにアクセスできる環境にある必要があります。

1 [サーバーマネージャ]を開く

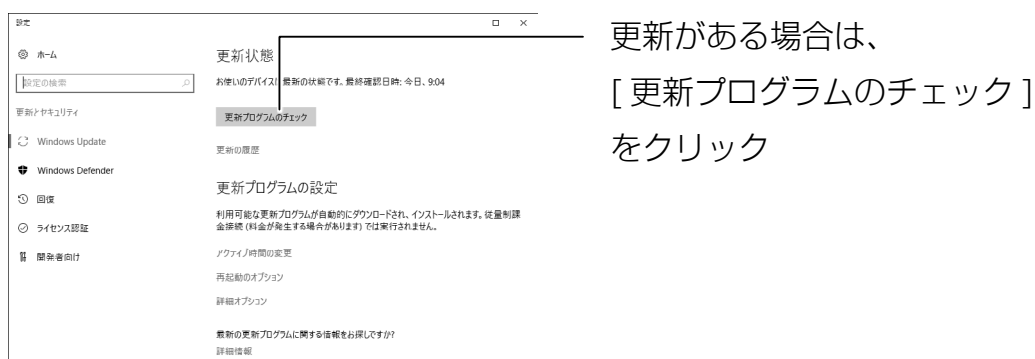
2



① [ローカルサーバー] をクリック

② [Windows Update] 横のリンクをクリック

3



更新がある場合は、
[更新プログラムのチェック]
をクリック

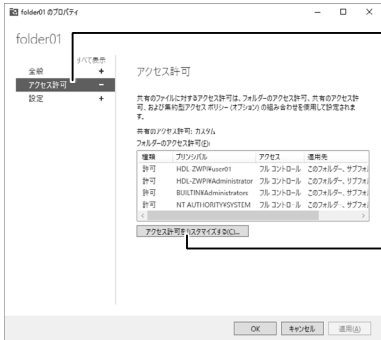
更新プログラムのダウンロード、インストールが実行されますのでしばらくお待ちください。


アクセス許可

各共有へのユーザーのアクセスレベルを設定します。

- 1 [サーバーマネージャー]を開き、[ファイルサービスと記憶域サービス]をクリック

- 2
 
 - ① [共有]をクリック
 - ② アクセス許可設定をする
共有フォルダーを右クリック
 - ③ [プロパティ]をクリック

- 3
 
 - ① [アクセス許可]をクリック
 - ② [アクセス許可をカスタマイズする]をクリック

- 4
 
 - ① アクセス許可設定をする
 - ② [OK]をクリック

以上で設定は完了です。

HDL-Zシリーズ パラメータシート (1/3)

記入日：	記入者：
------	------

基本設定

IP アドレス 固定設定で使用する場合は設定情報を記入します。ActiveDirectory環境の場合、必ずDNSサーバにADサーバアドレスを記入くだ

<input type="checkbox"/> 自動取得 (出荷時：右欄記入不要)	IPアドレス：	ゲートウェイ：
<input type="checkbox"/> 固定設定 (右欄を記入)	サブネット：	DNSサーバ：

LAN DISKの名前 出荷時設定(hdl-zw**("***"は製品シリーズにより異なります))から変更する場合はLAN DISKの名前を記入します。

<input type="checkbox"/> 出荷時設定で使用 (右欄記入不要)	LAN DISKの名前：
<input type="checkbox"/> 出荷時から変更する (右欄を記入)	

Workgroup/ActiveDirectory設定 ActiveDirectory設定を行う場合は、必要事項を記入します。

<input type="checkbox"/> Workgroupで利用 (右欄記入不要)	ADドメイン名
<input type="checkbox"/> ActiveDirectoryで利用(右欄を記入)	AD管理者ユーザー名
	AD管理者パスワード

共有フォルダー設定 (1/3)

共有フォルダーの名前

フォルダー名を指定

共有フォルダー名 記入欄 ※フォルダー名を記載します。 ※フォルダーに対するアクセス許可設定は、 次ページに記入します。	①	⑥
	②	⑦
	③	⑧
	④	⑨
	⑤	⑩

共有フォルダー設定 (2/3)

ユーザーの名前/パスワード

ユーザー名とパスワードを指定

	ユーザー名	パスワード
ユーザー名・パスワード 記入欄 ※ユーザー名とそのパスワードを記載します。	A	A
	B	B
	C	C
	D	D
	E	E
	F	F
	G	G
	H	H
	I	I
	J	J

HDL-Zシリーズ パラメータシート (3/3)

バックアップ設定

USB接続ハードディスクへのバックアップ方法を、WindowsServerBackupとクローン for Windowsから選択します。

バックアップ方法選択

WindowsServerBackupを使用 (下欄に記入) クローン for Windowsを使用 (設定項目は次ページ)

WindowsServerBackup 詳細設定

バックアップ元 すべて 指定ドライブ(

WindowsServerBackup スケジュール設定

曜日設定 月 火 水 木 金 土 日 時刻設定 :

クローン for Windows 詳細設定

メール送信設定を行うことにより、同期失敗の時などにメールで通知することができます。

VSSを使用するにチェックを入れることにより、ロックされているファイルも同期できるようになります。

メール設定

行う(下欄に必要事項記入) 行わない(メール設定は記入不要)

送信サーバー(SMTP)		SMTPポート	
認証方式			
認証ユーザー名		認証パスワード	
受信サーバー(POP3)			
POPポート		POP3承認待ち時間(ms)	
通知先メールアドレス			
通知元メールアドレス			

自動アップデート設定

プロキシサーバーを使用する(右欄) アドレス ポート

曜日設定 月 火 水 木 金 土 日 時刻設定 :

クローン for Windows ジョブ設定

ジョブ名 VSSを使用する

同期元フォルダー	
同期先フォルダー	

増分同期スケジュール

曜日設定 月 火 水 木 金 土 日 時刻設定 :

フル同期リフレッシュ設定

設定する

曜日設定 月 火 水 木 金 土 日 時刻設定 :

シャドウコピー設定

シャドウコピーは、ファイルが使用中かどうかに関わらず、その状態のコピーを作成する機能です。

シャドウコピーを設定することにより、削除されたファイルの復元などを行うことが可能となります。

シャドウコピーを使用する

対象ボリューム	
最大サイズ	